（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

令和元年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	伝統芸能こどもフェスティバル
事業主体 （連絡先）	長野市 （文化スポーツ振興部文化芸術課 224-7504）
事業区分	（３）教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,264,900 円（支援金：1,766,000 円）

事 業 内 容

後継者不足に悩む中、伝統芸能をイベントとして開催することで、子どもたちの参加を促進し、伝統芸能の継承を進める。

〇日時：令和元年９月22日、23日
〇会場：長野市芸術館
〇内容：こどもたちによる伝統芸能のステージ発表
　　こどもたちへの伝統芸能の体験・指導
　　合同ステージ発表と事前練習
〇全体会議：4/11、5/16、8/8
　事業内容検討、プログラム作り

【目標・ねらい】
①次世代への伝統芸能の継承
②ジャンルを超えた団体交流
③地域の活性化

事前練習

合同ステージ発表

体験ブース

事 業 効 果

◆出演団体 17 団体,257 名
　うち合同ステージ発表 54 名（伝統芸能初体験）
◆来場者 3,785 名
◆出演者アンケート
　〇総合的に満足・やや満足　73.3%
　〇次回も参加したい　　100.0%
　〇主な意見
　・伝統芸能を知る機会になる。継承につながる。
　・参加した子どもたちが喜んで良かった。
　・初開催か、ステージ観客が少なかった。

今後の取り組み

初開催であったが、54 名のこどもたちが伝統芸能に初めて参加し、所期の目的を達した。

一方、参加団体からのアイデアを全て受け入れたため、参加者自身が非常に多忙なプログラムとなった。今回参加した団体を中心に実行委員会として継続した実施を目指す。

※自己評価【Ａ】

【理由】
参加団体、来場者は目標に達しなかったが、新たに 54 名と多くのこどもたちが本イベントを契機に伝統芸能に取り組み始めたため

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「Ａ」：予定を上回る効果が得られた　「Ｂ」：予定していた効果が得られた
「Ｃ」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

令和元年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ながの獅子舞フェスティバル
事業主体 （連絡先）	長野市 （文化スポーツ振興部文化芸術課 224-7504）
事業区分	（３）教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	4,137,959 円（支援金：3,002,000 円）

事 業 内 容

後継者不足に悩む中、地域の伝統芸能をイベントとして開催することで、子どもたちや若者の参加を促進し、伝統芸能の継承を進める。

○日時：令和元年５月３日　午前10時～午後４時
○会場：善光寺表参道（中央通り）
　　長野駅善光寺口駅前広場
○内容：市内外の神楽獅子舞団体の披露　81団体
　　神楽屋台の展示、獅子舞体験会
　　写真コンテスト
　　善光寺花回廊会場との連携
○交流会（対象外事業）３月12日（火）
　事例発表、意見交換

【目標・ねらい】
①次世代への伝統芸能の継承
②世代や地域を超えた交流
③にぎわいづくりによる交流人口の増加

事 業 効 果

◆出演団体 81 団体, 約 1,300 名
◆観客７万人
◆出演者アンケート
　○総合的に満足・やや満足　96.9%
　○次回も参加したい　　95.4%
　○主な意見
　・会員の目標と伝統芸能の継承につながる
　・大勢の人に観ていただいて良かった
　・他の獅子舞を見て楽しかった。勉強になった

今後の取り組み

今回初めて長野広域管内にも声を掛け、市外からも５団体の参加があり、更なる広がりに期待が持てる。また、参加団体からアイデアの提案や自らのイベントとして盛り上げる機運が高まっており、市民主体の体制づくりを進めたい。

※自己評価【Ａ】

【理由】
年々、参加団体が増えるほか、参加団体の満足度向上、アイデア提供など、市民の気運の高まりが見られることから、当初の目的を超える事業効果があった。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「Ａ」：予定を上回る効果が得られた　「Ｂ」：予定していた効果が得られた
「Ｃ」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

令和元年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	長野地域スポーツ振興事業
事業主体 （連絡先）	長野広域連合 （026-213-5100）
事業区分	③ 教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,081,100 円（うち支援金：979,000 円）

事　業　内　容

スポーツを通じた長野地域全体のスポーツの振興及びチームの応援等を通じて、地域の一体感の醸成を図るため、長野地域内のプロスポーツ選手等との交流事業を実施した。

また、公式戦後のスタジアムやアリーナでごみ拾いなどのボランティア体験を行い、地元スポーツチームを支えるという関わりを体験した。

オリンピックに向けて高まる機運とともに、スポーツへの興味関心を醸成し、スポーツを通じて地域振興へと発展させる。

事　業　効　果

プロスポーツ選手等が長野地域内の学校等のグラウンドや体育館を訪問してスポーツ交流を行う「出張スポーツ交流」を実施し、参加した園児・児童・生徒等が公式戦会場でごみ拾いなどのボランティア活動を体験した。合わせて公式戦の応援や交流（サッカー、バスケットボール、バレーボール、フットサル、各１回）を実施した。

ボランティア体験への参加者数は、延べ 221 名で、ボランティアというスポーツを支える体験や、プロスポーツ選手との交流などにより、スポーツへの関心が高まり、地域活性化の促進につながった。

全体として、子ども達の体力向上・健康増進・情操の育成が図れ、また、長野地域のスポーツチームの認知度や興味度の向上も図れた。

【目標・ねらい】

- **長野地域内のスポーツ振興**
- **スポーツを通じて地域の一体感の醸成を図る**
- **子ども達の体力向上、健康増進、情操の育成を図る**

※自己評価【Ｂ】

プロスポーツ選手等との交流や公式戦でのボランティア体験により、スポーツへの関心が高まるとともに、地元チームへの愛着心の向上から地域の一体感の醸成が図られた。

今後の取り組み

長野地域スポーツ振興事業の「出張スポーツ交流」については、当広域連合が毎年行っている事業のため、継続して実施する。今年度、支援金の対象となったボランティア体験事業については、次年度以降もチームにおいて継続的に実施していきたい。

また、今後も長野地域の市町村と十分な連携をとりながら事業を実施し、スポーツを通じた地域の一体感の醸成を図りながら、長野地域を盛り上げていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「Ａ」：予定を上回る効果が得られた　「Ｂ」：予定していた効果が得られた
「Ｃ」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

令和元年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	古文書冊子発刊事業
事業主体 （連絡先）	栗田町内会 長野市大字栗田 480 番地 2
事業区分	(3)教育、文化・スポーツの振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	413,003 円（うち支援金：330,000 円）

事 業 内 容

栗田町には、江戸時代から昭和初期にかけての古文書が1,125 点あり、現在は腐食と散逸を避けるために長野市公文書館に寄託している。

この貴重な古文書の存在を広く町民に知らしめ、後世に残すため、重要と思われる古文書を冊子にして地元の小学校等に寄贈するとともに、冊子を利用して研修会を開催し栗田町民の生涯学習活動の動機づけを行う。

・ダイジェスト版の発行 ：8 月
・古文書冊子の発刊 ：11 月
・冊子、ダイジェスト版の地元小学校等への寄贈 ：12 月
・冊子を活用しての研修会の実施(2 回)：12 月、1 月
・地元小学校での授業 ：2 月(対象は 6 年生全児童)

【芹田小学校授業】

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

発刊された冊子を活用し、研修会を 2 回開催し、延べ 159 人の参加があった。(達成率 106%)研修後参加者にアンケートを行い、96 人より回答を得た。アンケートを分析し、事業効果を探った。(アンケート結果の詳細は別紙)

① アンケート回答者の約 98%の人が、栗田の歴史に興味を持ち、更に知りたい、冊子を読んでみたいと回答した。
② アンケート回答者の約 99%の人が、今後も機会があれば冊子の内容についての研修会を受講したいと回答した。
③ 芹田小学校 6 年生に対する授業を行い、古文書から栗田町を襲った過去の災害を知り、防災教育の一環ともなった。

【目標・ねらい】

①研修会に幅広い町民に参加してもらい、栗田の歴史に興味を持って貰う。(参加者目標 150 人)
②町民の生涯学習活動の動機づけを行う
③子供たちに郷土の歴史に興味をもってもらう。

※自己評価【　A　】

【理由】
・研修会(2 回)の参加者が 159 名に達した。(過去の町内会主催の研修会でも例がない)
・芹田小 6 年生 110 名への授業を実施し、古文書を通し栗田町の過去の災害を学び、郷土の歴史に興味を持つ良い機会となった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

町内会保管用の 50 冊については、番号を振り町内会で管理し、活用していく。

① アンケートには、今後も研修会を実施して欲しいという意見が多数寄せられた。今後は、機会をとらえ、冊子を活用し研修会を実施していく。
② 町内の古文書同好会等に冊子を貸し出して利用してもらう等、町民の生涯学習活動の支援を行っていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

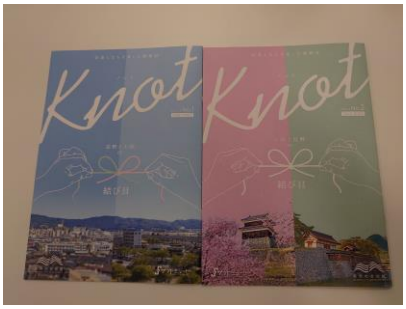
令和元年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	文化施設が作る「リトルプレス」（小冊子）による地域間交流及び魅力発信事業
事業主体 （連絡先）	一般財団法人長野市文化芸術振興財団 長野市大字鶴賀緑町 1613 番地
事業区分	（３）教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,584,851 円（うち支援金：1,938,000 円）

事 業 内 容

長野市芸術館（長野市）とサントミューゼ（上田市）の２つの文化施設が連携し作り上げたリトルプレス『Knot』（ノット）を通して、ホールと街に賑わいを創出する。文化施設同士がエリアをまたいで連携をとり、文化芸術の振興とともに互いのエリアの交流人口を図るリトルプレスの制作・情報発信は、長野県内でも初の試みとも言える。

内容は、公演の紹介だけではなく、インタビューを交えてアーティストの「人」を掘り下げ、来場者がおすすめするお店や場所など「まち」を紹介する。自らの暮らすまちの魅力を再発見し、互いのまちを新たに知るきっかけにも繋げる。



【令和元年度発

【目標・ねらい】

①「Knot」を読んだことによる他市からの来場者数の増加
②紹介施設、店舗への公演日の売上増などの波及効果

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①公演来場者へのアンケート内の来場理由に、『「Knot」を読んだため』を選択した方がおり、効果が見られた。
長野市芸術館（12 月実施事業～）：19 人
サントミューゼ（12 月実施事業～）：７人
②紹介施設、店舗への聞き取り調査から、「『knot を見た』と声をかけられた」、「市外にも発行されていると考えると誇りに感じる。店の魅力を高めていきたい」といった声があり、ホールから街に繋がり、地域を盛り上げる効果も期待できる

※自己評価【B】

【理由】
・公演来場者数増に効果が見られ、文化芸術の振興に寄与した。
・紹介店舗にも効果があり、まち全体の賑わい創生にも貢献した。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

複数のホールが連携してリトルプレスを作成する新たな試みとして、最終的には２館だけではなく、更に複数のホールと連携して作成できるよう、検討及び協議を進めていく。

「まち」の更なる賑わい創出に貢献できるよう、誌面での単なる紹介だけではなく、リトルプレスならではのサービスを付与してもらうような依頼を積極的に行い、より深く「まち」とホールが相互に盛り上げていく関係性を構築していく。

また、誌面の作成に当たっては、地元大学生等と協力して実施し、地域の魅力の発見と将来的に文化芸術に携わる人口の増にも貢献できるよう、仕組みを検討している。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

令和元年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ベトナム人（外国人）が信濃に溶け込む “すばらしなの事業”　 素晴らしい信濃
事業主体 （連絡先）	長野県ベトナム交流協会 長野市南県町 688-4　長野県婦人会館（電話：026-233-1124）
事業区分	③教育、文化の振興に関する事業（関連：②保険、医療、福祉の充実に関する事業）
事業タイプ	ソフト
総事業費	１,６０３,０００円（うち支援金：７６３,０００円）

事　業　内　容

ベトナム料理教室

①長野市周辺の地域の人と在留ベトナム人を対象に、料理研究家の赤沼先生を中心に、「ベトナム料理教室＆日本語教室」を６回にわたって開催した。

・時期：令和１年７月 28 日～令和２年１月 25 日(６回)
・場　所　　長野市中部勤労青少年ホーム
・参加者　　１９７人（在留ベトナム人７６人）

②輪っと集まれー「ほっとキッチン」（中高生・若者向け“子ども食堂”）
１ヵ月に２回（前期は学習主体）集いの場に、更に、在留ベトナム人の子弟に枠を広げた。
・時期：令和１年４月～令和２年１月 11 日（１８回開催）
・場所：長野市中部勤労青少年ホーム（第１土曜日：学習主体・カレー、第４土曜日：食育の日＆学習）
・参加者：３９３人（小中高・若者１０９人、ベトナム人５６人、大人２３６人）

事　業　効　果

①支援金を活用して、休日を寂しく過ごす在留ベトナム人と地域住民が心を通わす交流の場を提供できた。
②コミュニケーションツールとしての日本語教室を開設し、在留ベトナム人には、地域の日本人にベトナム語とベトナム文化をお返しに学習できた。
③県会議員の方や県知事の方のボランティア参加があり、地域の方々へ広めるきっかけ作りとなった。
④当交流協会の要請書がきっかけで、２０１９年８月に長野県議会において３番目の外国との友好議員連盟が設立された。地域の地道なイベント成果が届きました。長野県「日越友好議員連盟」が誕生した。

【目標・ねらい】

①地域の人とベトナム人の交流
②コミュニケーションツールの日本語教育の実践
③地域担い手不足解消への種まき

※自己評価【　B　】

【理由】
・当初の目的は十分に獲得できました。
・しかし、残念ながら台風１９号と新型コロナウィルスの影響で啓蒙と成果のシンポジウムを中止した。

今後の取り組み

長野市を中心とした地域の住民と在留ベトナム人（外国人）の普段の交流の場を県内に広める。もっと多くの場所に、日本語教室を開設し、気兼ねなく日本の風土に溶け込む在留ベトナム人（外国人）が増え、長期に滞在できる環境を整えていきたい。

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

令和元年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	第 15 回「まつしろ現代美術フェスティバル―泉水路ラボラトリー」
事業主体 （連絡先）	まつしろ現代美術フェスティバル実行委員会 （〒381―1231 長野県長野市松代町伊勢町５７７/026-285-0070）
事業区分	③ 教育、文化の振興に関する事業　ア　特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,251,472 円（うち支援金：　　1,000,000 円）

事 業 内 容

木村仁、小池芽英子、サンドラ・ゼレナク(ハンガリー)、杉原信幸、中村綾花、中村明、仁科まさし、羽田光、疋田義明、三野綾子、、ララ・ワン(台湾)、を招聘し、旧前島家住宅、旧樋口邸、旧松代駅、山寺常山邸、寺町商家、旧坂井家、皆神神社を会場に松代の歴史、文化、空間を生かした「泉水路ラボラトリー」をテーマにしたアーティスト・イン・レジデンスによる作品制作と、地域住民とのワークショップ、作品展示を行った。まちあるきアートツアー。寺町商家にてリー・チーシン(台湾)×鳥居史子×鳥居強志、、原始感覚獅子舞の公演を行った。「松代の泉水・泉水路とアート」シンポジウム、クロージングの懇親会を行った。

【小池芽英子「泉水路たいそう」】

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

① 全体の延べ入場者が昨年と比べで若干増加した。
② 原始感覚美術祭に参加した観客が松代にも訪れた。
③ 小池芽英子の古着と泉水路たいそうワークショップ作品や古着を用いたララ・ワンの作品、松代の竹を用いたサンドラ・ゼレナクの作品など松代の文化を表現した作品が生まれた。
④ 泉水路シンポジウムでは、宮下健司氏の泉水路にまつわる民俗学的なプレゼンテーションが作家の創造性を刺激し、泉水路の現在と未来にに対する課題点や可能性が話し合われた。

【目標・ねらい】

① 来場者の増加
② 2 地域を繋ぐ文化交流
③ 松代の文化を生かす作品制作
④ 松代の文化を生かすイベント

※自己評価【A】

【理由】
ワークショップによる地域との関わりに加え、より深い松代の文化の掘り起こしを行う作品制作とイベントが行われた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回、滞在作家のワークショップと長期レジデンスによって生まれた松代との関わりを継続し、新たな松代の文化となるような表現を生み出すため、より関わりに特化したレジデンスと作品展示の二つの方向性を考えたい。それにより、松代町民の課題とアーティストの表現が重なり、松代を深く表現した作品によって、多くの人が松代に興味を持って訪れてくれることを期待する。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

令和元年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ふるさとの食材を使用した信州ワインブレッドの普及啓蒙活動
事業主体 （連絡先）	信州ワインブレッド研究会 長野市篠ノ井会 30-2
事業区分	（６）産業振興、雇用拡大（エ　商業の振興）
事業タイプ	ソフト
総事業費	794,029 円（うち支援金：344,000 円）

事 業 内 容

長野地区は、小麦や果物等、信州ワインブレッドに使用できる農産物の生産が多い事、新幹線駅があり、観光客が長野に訪れる玄関口となっているために、観光客需要が望める事、の 2 点から地域での信州ワインブレッドＰＲ活動強化し、知名度を上げようと 4 つの事業を行った。

・信州ワインブレッド研究会総会・講演会の実施：令和元年 6 月 13 日
・パン講習会と試食発表会の実施：令和 1 年 11 月 12 日
・各種イベントへの参加、PR 活動（・ながの果物語りスイーツビュッフェ、NAGANO WINE FES 等）
・信州ワインブレッド研究会活動周知の会報（隔月）

【製パン講習会試食発表会の様子】

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①イベントに参加時には会員にパン製造を依頼したり、製造者と販売者をつなげたり（ケータリングでの採用など）したことで、製造、販売の強化につながり、周知活動にもなった。
②県内外問わず積極的にイベントへの参加に努め、リーフレットの増版、配布、研究会会報の発行を行うことで、多くに人に信州ワインブレッドを知っていただけた。
③地域農産物使用に特化した製パン講習会を開催、長野県産の食材を使ったパンの開発を行い、若手製パン事業者に対しての啓蒙活動ができた。

【目標・ねらい】

① 製造、販売、取り扱い店舗増加
② 信州ワインブレッド知名度向上
③ 地消地産への寄与

※自己評価【　Ｃ　】

【理由】
長野県産食材使用のパンの開発を行ったが、企画段階までで、実販売には至っていないためＣとした。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

信州ワインブレッドの日が日本記念日協会により毎月 20 日に認定を受け、さらなる知名度向上を目的とし、授与式を行う。
また、イベントに参加するだけではなく自らイベントを行うことで、信州ワインブレッドを地域住民にとって身近な存在として取り扱っていただけるよう取り組む。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

平成 31 年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	長野県内の若年層の性的マイノリティへの理解・サポート推進事業
事業主体 （連絡先）	ダイバーシティ信州
事業区分	（２）保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	468,474 円（うち支援金：　　351,000 円）

事 業 内 容

①性的マイノリティ当事者と支援者を対象にした勉強会（7 月 6 日：講師 八尋遥さん）

県内で子ども・若者の居場所を開催するための準備として、先進的に東京で活動している講師を招いて、当事者と支援者を対象にした勉強会を長野市で開催した。教育関係者や行政関係者、また県内や他県の当事者が参加し、若者の居場所の必要性が共有された。

②子ども・若者の居場所開催（8 月 17 日）

先進に取り組んでいるにじーず代表の遠藤まめたさん、スタッフの八尋さんを中心に、ダイバーシティ信州のメンバーや協力してくれた当事者がスタッフとなり、居場所を1日開催した。約 10 名の高校生や大学生などが参加した。

【講演会の様子】

【目標・ねらい】

①性の多様性の理解や多様な価値観・生き方を尊重するため、啓発活動を広げる
②若年層をターゲットとした居場所やサポートを創出するため、先進事例の勉強会や、試験的な居場所の開催

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

1. 性の多様性の理解や多様な価値観・生き方を尊重するための啓発については、勉強会に県や市町村の関係部署担当者が参加し、参加者の半数以上を占めたことから、行政や教育機関への情報提供という目標がある程度達成されたと考えられる。
2. 若年層をターゲットとした居場所を試験的に開催することで、県内でも 10～20 代の LGBT 当事者の居場所に対するニーズがあることが把握された。また、先進事例からスタッフを派遣してもらったことで、県内でも居場所を開催する場合のスタッフ育成という課題が浮かび上がった。

※自己評価【　C　】

【理由】勉強会に参加した行政関係部署からの講演会やガイドライン作成協力の依頼により、啓発活動が広がった。また、若年層の居場所活動からニーズが把握され追加開催も計画したが、災害等で活動が中止になってしまった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今年度の事業を通じて、性の多様性の理解や多様な価値観・生き方を尊重する取り組みが行政関係者部署で更なる広がりにつながったことを考えると、このような活動を続けていくことが社会的にも必要であることがわかる。また、若年層の居場所のニーズも分かったので、県内で定期的に居場所活動が開催できるように、先進事例と県内当事者団体との協力を深めていきたい。そのことで若年層の LGBT 当事者が孤立しないような取り組みとしたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（長野地域）

平成３１年度　地域発　元気づくり支援金事業総括書

事業名	須坂☆キッズシアタープロジェクト
事業主体 （連絡先）	ドリーム・コンシェル ０５０－３７８６－２９７８　理事長　杉本文江
事業区分	教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	2,090,345 円（うち支援金：1,672,000 円）

事 業 内 容

【稽古日】令和1年 10 月 6 日～令和 2 年 1 月 3 日(計 13 回)
【上演日】令和 2 年 1 月 5 日　13 時 30 分～15 時
【演　目】小学生による Straight Tiger 直虎 前編
【場　所】メセナ小ホール
【事業内容】
健全な子どもの育成と長野県の歴史・文化の伝承に貢献を目的に演劇体験ワークショップを企画・運営を実施した。
本年度は、須坂藩13代藩主堀直虎公を演題した発表会の第 2 弾として、小学生だけで演じる舞台を上演した。
出演者…19 名、観客動員数…160 名。多くの方にこのプロジェクトの効果と地域の偉人について知る機会となった。
この後も直虎公の舞台を子供たちの表現力アップと地域の歴史や文化の発展のために継続事業としていきたい。

事 業 効 果

① 出演者は地元須坂市、長野市、上田市、小布施町、中野市の小学生の１年生から６年生が参加した（19 名）そして中学生（3 名）が参加協力してくれた
② 須坂市の紙芝居の会や地域の歴史や文化の伝承活動家の方々の多大なる協力をいただけ、地域の継続イベントにしてほしいとの声をたくさんいただいた
③ 稽古は楽しく、回を重ねるごとにチームが一つになっていった。本番は大成功。アンケートは 77 枚。子供の舞台でこんなに感動するとは思わなかった等、観客からも後編に期待するお声をいただいた
④ 今回も演劇のプロから指導を受ける演劇体験ワークショップと子どもの可能性のすばらしさを実感した。次年度は後編を実施予定。告知活動の強化と地域も協力団体を増やしていく。

【発表会の様子】

【目標・ねらい】

① 子どもたちの知恵と想像力と身体性を養うと共に、地元を愛する心とコミュニケーション能力向上を目指す。
② 地元の活動家と共に発表会を実施することによって、世代を超えた人間関係作りと、自己評価の向上の糸口とする。
③ 発表会を通じて親や多くの一般の方々に観劇いただくことで、地元愛を養い伝承活動へとつなげていく。

※自己評価【　B　】

【理由】
・①～③すべて良い結果ではあったが、予定数の参加者に満たなかったことと観客動員数が前年度の７０％となったこと。

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（**長野**地域）

令和元年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	**懐かしくて新しい「紙芝居のさと」づくりⅢ**
事業主体 （連絡先）	**信州須坂紙芝居のさとプロジェクト** **市立須坂図書館　TEL026(245)0784(文平)**
事業区分	**③教育及び文化の振興に関する事業** **⑧その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業**
事業タイプ	**ソフト**
総事業費	**2,921,480円（うち支援金：2,337,000円）**

事業内容

紙芝居の盛んな須坂市にありながら、須坂市立博物館に収蔵されている昭和の貴重な紙芝居のことは知られていなかった。当市出身の街頭紙芝居最後の絵元・塩崎源一郎が寄贈したそれらの紙芝居を複製し、市民が日常的に「使える文化財」にすることで、郷土の先人・塩崎の偉業を伝え、ふるさとの特色ある芸術活動として定着させていく。

市民が力を合わせて複製するなかで、レプリカ作成のノウハウを継承し、演じ手も育成する。生きがいを求めるシニア世代には、研修と活躍の場を提供する。世代を超えて紙芝居を伝えていくために、清泉女学院大学・短期大学とも連携する。紙芝居を新たな文化芸術活動（KMMISHIBAI）に高めていくにはどうしたらよいか、ともに考え、発信する。

昭和の紙芝居は大学生にとっては新しい。若者の感性で、脚本を検討し、完成させた。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

① 平成29年度から、3年の歳月をかけ、須坂市立博物館の協力と三邑会の監修のもと、昭和の貴重な紙芝居700枚を複製した。これまでに完成させたレプリカを塩崎の弟子と市民が、130名の市民の前で披露した。

② 複製された紙芝居をみることで、塩崎源一郎の存在を知った市民が、紙芝居の盛んな郷土との不思議な縁を感じ、紙芝居は、ふるさととは切っても切れないたいせつな文化だと気づいた。

③ レプリカ作成を機に長野県内で活動する紙芝居団体・個人や市民が集まり、ネットワークができた。塩崎の弟子の街頭紙芝居師もたびたび出演するなど、「須坂に行くと紙芝居が見られる」など、須坂が「紙芝居のさと」であることが定着し、集客につながるようになった。

④ 昨年度につづき、紙芝居を使って地域で活動したい初心者（特に男性シニア）向けに、「信州須坂とことん紙芝居塾」を開講した。実技講習に加えて、地域デビューまでをとことんサポートした。

⑤ 小・中学校の「信州型コミュニティスクール」や、高等学校の「信州学」などに紙芝居を取り入れるところが増え、世代を超えた交流が盛んに行われるようになった。

【目標・ねらい】

① 博物館に眠る紙芝居を複製して使えるようにすること。
② 塩崎源一郎さんの偉業を伝え、郷土愛をはぐくむこと。
③ 紙芝居団体のネットワーク構築。シニアに研修と活躍の場を提供。
④ 紙芝居文化を醸成し、郷土に誇りを持つ市民を育てる。
⑤ 次代を担う大学生と協働し、紙芝居を新たな文化に高める。

※自己評価【　**A**　】

【理由】
3年の歳月をかけて完成させた「懐かしくて新しい紙芝居」（レプリカ）700枚を、大勢の市民が見守るなか、塩崎の弟子と市民が上演した。あちこちで肩寄せ合って紙芝居を楽しむ風景が見られ、「紙芝居のさと」が誕生した。

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

紙芝居文化を醸成し演じ手を育成する事業、特に世代を超えた交流に積極的に取り組んでいく。
特に、今の時代のコンテンツに長けた大学生の知恵を借り、シニア世代には持ち合わせない新たな発想と技術で、完成させたレプリカを、広く発信し、信州須坂の文化芸術として長く残していきたい。
これからの世代が、これから生涯にわたって楽しんで取り組める紙芝居の新しいかたちを、ともに考えていきたい。
須坂市社会福祉協議会や長野県長寿社会開発センター等と連携し、シニア世代の活躍や、介護福祉施設への派遣を行えるようシステムを構築していく。
ひきつづき昭和の貴重な紙芝居の複製と普及に努め、紙芝居をツールに、明るくあたたかいまちをつくっていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「Ａ」：予定を上回る効果が得られた　「Ｂ」：予定していた効果が得られた
「Ｃ」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

令和元年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	長野ガロンズ　中学生むけトレーニング講習会
事業主体 （連絡先）	株式会社　信州スポーツプロモーション 須坂市大字須坂 1230-43 ハイランド 209
事業区分	（3）教育、文化の振興
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	436,527円（うち支援金：　311,000　円）

事業内容

地域密着型バレーボールチームの長野ガロンズのトレーナーが北信地域の中学生にトレーニングを指導するイベント型の講座を開催した。地域のバレーボールプレーヤーの底上げとチームの知名度アップに資する事業とする。

部活動の時間が限られてくる中、自ら考えて練習できる選手になれるような講座になるように努めた。

令和元年９月 14 日（土）
９時から正午まで
参加者　生徒 45 人　引率６人

【参加者集合写真】

【目標・ねらい】

① チームの知名度アップ
② 中学生世代の選手育成による地域貢献
③ 地域住民の参画

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①選手との交流もあり、参加者への効果は十分であったが、実施の報道が須坂地域に限られたため、ＰＲ効果は限定的であった。

②参加校の顧問の先生からは、「練習メニューの参考になる」保護者からは「技術講習もしてほしい」等の高評価を得た。今回は日ごろの練習に活かせる内容の講座としたため、参加者からガロンズジュニアへ入会する生徒はいなかった。

③参加校との縁で、生徒にホームゲームのコートオフィシャル（モッパー）を担っていただくことができた。

※自己評価【B】

【理由】
生徒たちの生き生きとした表情から、参加者の満足度は感じられたが、ガロンズジュニアへの入会者はなく、ホームゲーム集客へつなげることが難しかった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

購入したトレーニンググッズは次回の講座、訪問型の事業で使用するとともに、トップチーム、ガロンズジュニアの練習でも使用し、地域のバレーボール振興に活用する。

支援金で作成した装飾物はホームゲームでも活用し、一部はアウェイゲームにも持参し、会場の雰囲気づくりに活用する。

引き続きトップチームのＶリーグでの試合、ガロンズジュニアによる育成事業とともに、バレーボール経験者以外へも働きかけることで関心を高め、バレーボールを通じて地域を盛り上げていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

令和元年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	第九で市民の心をつなげよう―音楽活動によるまちづくり―「ことぶきアリーナ千曲・新庁舎落成記念演奏会」
事業主体（連絡先）	音楽活動によるまちづくり委員会（026-273-1111）
事業区分	（１）③教育、文化の振興に関する事業 （１）①地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,426,265 円（うち支援金：928,000 円）

事 業 内 容

千曲市合併後の 15 年の節目と、新庁舎、新体育館建設を祝し、市民合唱団、市内音楽団体によるオーケストラを組織することで、市民が一体となった演奏会を開催し、市民の一体感を高揚させ、市内音楽団体の連携と交流を図ることで音楽をとおしたまちづくりに関する機運を高め、地域の活性化に貢献することを目的とした。

令和２年３月１日、新型コロナウイルス感染症の影響により、やむなく演奏会を中止する決断に至ったが、それまでの活動による、地域住民の盛り上がり、関係者の連携や交流が図られたことで、音楽をとおしたまちづくりに対する機運は一定程度高められた。

【市民合唱団練習の様

【目標・ねらい】

① 地域の一体感の醸成
② 音楽団体の連携と交流
③ 新体育館の用途拡大

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

① 地域の一体感の醸成
市民合唱団の公募や練習、演奏会の目的や概要に至るまで、広く周知することができ、演奏会を楽しみにする市民の反響を多くいただくことができた。

② 音楽団体の連携と交流
日頃個別の活動になりがちな音楽団体が、実行委員会や合唱、オーケストラの練習で連携、交流することで市内の音楽活動が拡大していく契機となった。

③ 新体育館の用途拡大
新しい用途提案として一石を投じることができた。

※自己評価【Ｃ】

【理由】
目的であった演奏会はやむなく中止となったが、その過程で一定の事業効果は見られた。再開催を市民からも熱望されており、実行委員会としては、再度演奏会を計画することを検討していく。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今回できた市民とのつながり、音楽団体同士のつながりをとぎれさせることなく、市内の音楽活動を活発化させていき、地域の盛り上がりに引き続き貢献していきたい。

また、実行委員会は今後も定期的に交流し、令和３年度の演奏会の再計画に向けて、準備を進めていく。

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

令和元年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	日本人の美意識が凝縮された「さらしな」の地名を生かした地域づくり事業
事業主体 （連絡先）	さらしなルネサンス （０８０－７７６０－９０３７）
事業区分	（３）教育・文化の振興に関する事業（５）環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	４９７，３７８円（うち支援金：　３７３，００円）

事 業 内 容　さらしな学わくわく講座

２００５年、大岡村の長野市合併で「更級郡」が消滅した「さらしな」の地名をもう一度世に送り出し地域を元気にするため、「さらしな学わくわく講座」を全４回開催。

①講演会「都人があこがれた『さらしな』　里人の心に分け入る」（5 月 25 日）
②ウオーキング「『姨捨の棚田』誕生物語」（6 月 29 日）
③ウオーキング「冠着山（姨捨山）と古峠越え古道を歩く」（8 月 24 日）
④講演＆実演＆食味＆体験「手打ちさらしなそば」（11 月 30 日）

【白いさらしなそばの手打ちを披露する根本忠明さん＝姨捨観光会館】

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

４回それぞれの講座について、詳しい報告記事とビデオ編集動画をＨＰなどネットにアップ。動画は Youtube でだれでもどこからでも見られるようにしてある。当会のＨＰで特集するアイコンを２０２０年春に作り、クリックしてもらいやすいようにＨＰを整える。さらに、ＤＶＤ化して図書館や学校、教育関連施設に贈呈する。ともすれば座学だけになりがちなテーマを、体験や食べ物など身近かなテーマと重ね合わせたことで、地域の教育や文化の振興に活用したいと思う人が増えた。

【目標・ねらい】

① 合併で消滅した地名の復活
② ブランド地名を地域の誇りに
③ 地場産品名に「さらしな」活用

※自己評価【　Ｂ　】

【理由】座学だけでなくウオーキング、体験、食べ物など幅広いテーマを切り口に講座を開催。初めて会う参加者もたくさんおり、潜在的な関心の高さを実感できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

当会では、さらしなの里を全国に知らしめた平安時代の和歌「わが心慰めかねつさらしなや姨捨山に照る月をみて」の歌碑を建立する構想も練っている。建立には、多くの人の関心と資金の援助を得るというプロセスを大事にしたいと考えている。日本人の根源的な精神構造を解明する有力な手掛かりと研究者に言われている和歌なので、碑の建立は長野県民全体の利益にもなる。そのような企画を実現するための手段として、長野県元気づくり支援金を今後も活用できればと考えている。

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

平成３１年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小布施オープンエアシアター
事業主体 （連絡先）	小布施町文化事業活性化実行委員会 渡辺章宏
事業区分	ふるさとを大切にする心を育む取組の促進
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,473,741　円（うち支援金：　3,390,000　円）

事 業 内 容

【上演日】１年８月 31 日，９月１日　18 時～21 時
【演　目】小布施野外シアター2019
　　続 福島正則 最後の戦い
【場　所】小布施町総合公園にある野外ステージ
私達小布施町文化事業活性化実行委員会は、北信地方の方々に芸術に触れ楽しむ風土を創りたいと考え、昨年に続き「福島正則」公を演題として、住民参加型の舞台を上演した。
出演者は 48 名（小学生・中学生 12 名を含む）
観客動員数は 1260 名。多くの方に地域の偉人について見直す機会となった。
この後は野外演劇を地域芸術文化振興の柱として、全国に向かって小布施町の魅力として広めていくために継続事業としていきたい。

【野外シアター】

事 業 効 果

域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があった項目毎に記載すること

①両日共に天候に恵まれ、またエバーグリーンさんとのコラボも活況を呈し、観客は 1260 名と昨年を１割以上上回った。
原作者の大久保先生夫妻を招き、教え子も含め喜んでいただいた。先生夫妻の感激ぶりが印象的であった。

②岩松院の住職・教育長・町職員も出演し、話題性も十分であったため地元の観客を半数は確保でき、地元の英雄を更に知っていただく場になった。

③今年は、７月下旬には子供たちも含め、全員が一緒の会場で稽古ができるレベルになっており、盆休みの稽古後には通し稽古ができていた。更に演奏隊・声楽隊も積極的に稽古に参加してもらえたおかげで、昨年以上の連帯感が生まれた。
各人の目力や手足の先まで魂の入った踊りは、昨年の比ではなかった。観客からは、素人集団とは思えないと賞賛をいただき、青木理事長の指導力の賜物だった。

④国内でも、野外公演をする劇団は希少価値だ。生演奏・生コーラスも、幻想的なこのステージにはピッタリだ。この劇が小布施町でできることへのプライドを持ちたい。今後も継続することで、更なる存在感を示し長野県のみならず、全国に向かってアピールしたい。

【目標・ねらい】

① 出演者・観客・運営者の全員で一体感を味わえる
② 地元の歴史を知り地元愛を育む
③ 世代を超えた交流の場
④ 国内で希少な野外公演を実施することへの誇り

※自己評価【B】

【理由】
・地元の観客も増え、間違いなく裾野は広がった。あちこちから来年は出演したいという声も聞こえてきたことは、大きな自信になった。来年度への更なる励みになり、継続することにより地域活性化の一翼を担っていきたい。

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

今後の取り組み

今年の来場者は、1200 名を超える賑わいであった。その半分を、地元から観劇いただいたことは大きな収穫だ。従って、野外劇の存在は浸透しつつあることは確かだ。ただ、当初は「大鹿歌舞伎」のような地元住民で構成される劇のイメージも持っていたが、そこまでには程遠い。
しかし岩松院の住職を始め、教育長や役場職員も出演いただいたことで、“来年は出演したい”という声を地元から聞く機会も増えている。
エバーグリーンさんとの更なるコラボの強化も、集客効果は確実に上がるはずだ。これを更に発展させ、地元食材を使った“食育”的な活動を絡められないものか模索したい。そのためにも、地元の小中学校を巻き込めないものか検討し、校長方とじっくり話をしてみたい。
全国的には、正則公の生誕の地（愛知県）と、鹿児島県の島津家とをどう絡めるのか模索する。観光地として更なる飛躍のきっかけを、野外劇を通じて考えてみたい。
会場となった、小布施の総合公園は今回水害にあった場所でもあり、再び観衆が集まり賑わう聖地として“元気”を届ける役目も担いながら、継続事業として進めていきたい。

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「Ａ」：予定を上回る効果が得られた　「Ｂ」：予定していた効果が得られた
「Ｃ」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

令和元年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	**映像制作ワークショップを通じた「映像のまち」創生プロジェクト**
事業主体 （連絡先）	一般社団法人　小布施まちイノベーション HUB （長野県上高井郡小布施町大字小布施 1491-2）
事業区分	③教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	3,153,257 円（うち支援金：1,612,000 円）

事 業 内 容

・前年に引き続き、ショートフィルムコンペを実施し、全国から作品を募集し、長野県内の一般の方も交えて審査を行った。
・2020 年 1 月 11-13 日に、今後の活躍が期待される若手の役者を対象とした演技力向上のためのワークショップ合宿を開催した。ワークショップでは、若手映画監督 2 名が講師を務め、演技指導を行い、最終日には成果発表の機会として簡単な映像作品を制作した。
・2 月 14-16 日にかけては、地元の小学生を対象とした映像制作のワークショップを行った。全国でワークショップの実績をもつ NPO「こども映画教室」と協働で開催し、プロの映画監督による指導のもと、参加者は脚本・撮影・編集などを学んだ。最終日には 10 分程度の映画をこどもたち自ら製作し、上映した。

【目標・ねらい】

①未来の映像制作に関わるクリエイティブ人材を育成すること。
②映画への新たな楽しみ方を提案し、より親しんでもらうこと。
③映像を通じた地域の新しい交流を生み出すこと。

事 業 効 果

・一般の方によって構成される「みんなが審査員」には町内外の 27 名の方にご参加いただいた。小布施町で開催した最終審査会では、20 名の町民の方を含む 40 名で審査を実施した。
・役者向けワークショップには、23 名の役者が参加し（うち長野県内から 3 名）、最終日にすべての役者が出演する形で、簡単なショートムービーを合計 6 作品制作した。制作にあたって、町内の施設（3 か所）、町民のみなさま（10 名程度）のご協力をいただいた。
・こども向けワークショップは、12 名の小学生にご参加いただいた。最終日の撮影はすべて町内で行われ、こどもたちが選定した町内 10 か所余りがロケ地となった。

※自己評価【A】

【理由】
・一般審査、2 つのワークショップそれぞれ、募集数以上の応募をいただけた。
・それぞれの企画実施にあたって、想定以上の人や団体から協力・支援をいただくことができた。
・映画祭から、映像文化に関わる機会を創出することができた。

今後の取り組み

・ワークショップを通じて関わりをもった役者や製作スタッフの方々と協働し、小布施町を舞台にした映画制作に取り組んでいきたい。
・初の試みとなったこども向けワークショップを継続的に実施し、未来のクリエイティブ人材の育成に取り組んでいきたい。
・今回の取組を発展させながら、「鑑賞する」以外の映画への親しみ方を探っていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

平成 31 年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	スラックラインワールドカップジャパンによる地域活性化
事業主体 （連絡先）	2019 スラックラインワールドカップジャパン実行委員会 （026-247-3924）
事業区分	③　教育、文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	22,586,941 円（うち支援金：10,576,000 円）

事 業 内 容

2017 年に続き 2 度目のスラックラインワールドカップの実施。

■時期場所

2019 年 9 月 14 日（公開練習）15 日（大会）の 2 日間、長野県小布施町にある小布施総合公園（ハイウェイオアシス）で開催。

■企画運営

一般社団法人スラックライン推進機構や長野県内外のスラックライン愛好者、小布施町民ら総勢約 50 名から成る実行委員会が中心となり企画運営を進めた。

■大会形式

本大会は、一般社団法人スラックライン推進機構が競技者・観戦者目線で開発した独自ルールを採用。大会は、大陸ごとに開催される事前選抜大会（オンライン上）を通過した 18 名によるトーナメント方式で実施。

■大会のユニバーサル化

高齢者や障がいのある方々、言葉の壁がある方々が楽しめる大会となるよう、車いす専用シート・トイレ・通訳・手話を取入れ、誰も楽しめる場を提供。

■大会前のプロ選手との交流活動・PR 活動

大会後のプロ選手と若手選手の交流・セッション実施。

スラックラインの裾野を県内各地にさらに広げていくために、大会前に県内で地元小中学校などと連携し、事前体験会を実施。4 月～10 月期間、県内外・国外の 25 か所での PR 活動実施。

■総務省の 5G 総合実証試験

総務省の主導により開始される第 5 世代移動通信システム『5G』総合実証試験において、KDDI とスラックラインに関連する 5G 実証試験を実施。

【大会会場風景】

（活動写真）

【目標・ねらい】

スラックラインを通じて、地域と連携し、地域外、世界からの誘客と、世界における長野県や北信地域の認知度向上。

※自己評価【　A　】

【理由】

当日の来場者数 1 万人を達成。メディア放送多数。長期間通じて、県内外・国外に広く PR 出来た。

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

事 業 効 果

・本大会を通じて、スラックラインワールドカップをきっかけに、住民が主体となり様々なセクターや周辺地域と連携し、地域外、ひいては世界からの誘客と、世界における長野県や北信地域の認知度向上に繋がった。国が進める地方創生においても、自治体や企業間の連携・協働を積極的に推進しているが、住民主導のもとでマルチセクターの連携や協働が果たされた。
・住民主導のもとで、自治体や関係企業などがメンバーとなる実行委員会が構築されており、十分な協力体制で実施できた。
・スラックライン推進機構が開発した採点・判定システムが国際大会として初めて導入できたことで、スラックライン関係者らの中で、競技者や観客本意のルールづくりに向けた議論が活性化し、大会後も継続して協力体制の構築に繋げられた。
・大会のユニバーサル化に向け、高齢者や障がいのある方々、言葉の壁がある方々が楽しめる大会となるよう、車いす専用シート・トイレ・通訳・手話を取入れ、誰も楽しめる場を提供できた。
・大会前後のプロ選手との交流活動・PR 活動・セッションを通じて、スラックラインの裾野を県内各地にさらに広げることができ、競技人口の増加などが見込まれるとともに、長野県の地域経済への効果も図れた。
・大会 PR 活動を早期に進めたことでスポーツ庁・総務省の後援も頂け、県内外にも大きな PR に繋げられた。
　学校訪問集客数（栗ガ丘小 656 人・山ノ内小 142 人・山ノ内中 305 人）
　イベント PR・体験会数（国内外 25 か所イベント集客総数約 40 万人）
目標にしていた参加者 200 名を大幅に超えることができた。
　その成果も有り、大会中、総務省の主導により開始される第 5 世代移動通信システム『5G』総合実証試験において、KDDI とスラックラインに関連する 5G 実証試験を実施。
・事前告知における facebook 等の SNS やウェブサイトの閲覧者数 1 万人以上、当日 15 日のみの来場者数で 1 万人を達成。多くのメディア放送にも取上げられた。

今後の取り組み

■オリンピック種目採用に向けて：2020 年東京五輪でパフォーマンス→2024 年 2028 年を視野に考えています。
■2020 年全国各地でシリーズ戦の開催を企画（全国数か所）：地域のケーブルテレビ局と連携したシリーズ戦。映像配信、プロモーション活動を通じ、スラックラインといえば地域ケーブルテレビ！となるようにジャパンカップ、ワールドカップの継続開催。
地域スポーツが地方創生のキーワードに新たなモデルの実現と新たなビジネス領域の確立を図る。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野　地域）

令和元年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	赤塩焼復活プロジェクトⅢ
事業主体 （連絡先）	赤東区　赤塩焼啓発委員会 上水内郡飯綱町赤塩４６７０－１
事業区分	（３）教育、文化の振興に関する事業 （１）地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	１，５９５，３３９　円（うち支援金：　１，２３４，０００　円）

事 業 内 容

赤東地区には、伝統工芸品「赤塩焼」が作られていたが、現在ではその技術を受け継ぐ者がなく途絶えてしまった。その貴重な文化を、町の宝として再び地元の土で造る「赤塩焼」を復活させ、地元への誇りと愛着がもてるまちづくりの推進を実施。

・赤塩焼体験教室：９月７日、２１日、１０月５日
　月一開催　延べ４２名
・啓発パンフレット改訂版作成：Ｒ２　２月１２日
・記念タイル造り：　８月　６日（サマーキャンプ）
　　８月１４日（区民祭）
　　地区有志（適宜）

【記念タイル造り】
（サマーキャンプ）

【目標・ねらい】

① 赤塩焼を後世に伝えていける人材育成
② 赤塩焼の認知度向上
③ 地元への愛着の醸成

事 業 効 果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

① 体験教室に参加された方より、積極的な啓発委員会への協力があり、赤塩焼を通じた繋がりに期待が持てる。また、リピーターも多く、陶芸愛好家の人口が増えつつある。
② 新たな古文書等の調査、研究により赤塩焼の歴史や特徴がより正確な価値が確認されたパンフレット改訂版により赤塩焼に実態がより正確に周知された。
③ 地元住民の手造りによる赤塩焼タイルをリニューアルオープンイベントのワークショップで思い出を共有したかったが、中止の為、町当局と価値の必要性を共有し必ずワークショップを実施し文化遺産である赤塩焼を通して地元愛を深めたい。

※自己評価【　Ｂ　】

【理由】
・陶芸教室、記念タイル造り等により多くの方たちの「赤塩焼」が存在したという理解、関心は間違いなく広がった。ただ、文化財としての歴史的、文化的価値観の認知度はまだまだというところを感じ、町歴史ふれあい館との協働が今後の課題と考える。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

今後とも啓発委員会として、復活に向けた取り組みがスムーズに進むよう、地域・町と協力して調査、育成、啓発に尽力していく。また、赤塩焼の用途の拡大を図り、洗練した形を研究し、ブランド化を目指していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「Ａ」：予定を上回る効果が得られた　「Ｂ」：予定していた効果が得られた
「Ｃ」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（長野地域）

令和元年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	未来のこどもラボ 2019
事業主体 （連絡先）	「未来のこどもラボ」実証研究事業体 長野県長野市中御所１丁目 10-10
事業区分	(3) 教育、文化・スポーツの振興に関する事業、 (8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	5,340,072 円（うち支援金：4,126,000 円）

事業内容

2018 年に廃校となった旧牟礼西小学校における、こどもを中心とした「新たな学び」を提供するイベントを中心とした事業。

・イベント開催期間： 7 月 27 日～8 月 4 日
　　参加者：1247 名（延べ）
　　来場者：1112 名（延べ）
・公式 HP 開設
・記録誌の制作

（活動写真）

【牟礼西小シンボル「トチの木」で行われたツリークライミング講座】

事業効果

① 新たな学びのプログラムは、昨年のプログラミング講座に加え、本年は日本のアートシーンを牽引する越ちひろ氏を招聘した WS を中心に、飯綱町の自然を生かした WS や、ガールスカウト長野県第 11 団による SDGs をテーマとした WS など、幅広く独自の学びを提供できた（プログラム数：前年 10 種→本年 20 種）。また、県内外の専門・大学からの協力を得ることができ、昨年にも増して児童・生徒のみならず、スタッフとしての高等教育機関の学生参加も増えた（高等教育機関学生の参加：前年 32 名→本年 135 名［延べ人数］）。

② メモリアルルームの開設協力、及び上映会（牟礼西小学校の歴史をめぐる映像と、昭和 34 年頃の牟礼村記録映像の上映）を行い、多世代間交流の場づくりを行う。また、オーガニックリゾート株式会社を中心とした地域の民間事業所からの協力・協賛も得ることができ、本事業をきっかけとした交流機会を創出できた（協賛：新規 3 社）。

③ 公式 HP 開設（2019 年 7 月～）にて、町民インタビューの公開を始め、記録誌の制作（2020 年 3 月）では、旧牟礼西小学校の歴史も抜粋にて紹介した。

【目標・ねらい】

① こどもたちへの「新たな学び」の提供
② 新たな地域コミュニティ形成の一助
③ （少子化等）地域が抱える課題に対する住民の意識醸成

※自己評価【　B　】

【理由】

基本的には、①、②、③において、スタッフ動員、連携強化など当初予定していた以上の実績を挙げたと考えるが、事業実施方法や今後の活用等について、以下の 3 点で改善すべき点があるため。

1. 猛暑であり（町内放送等で外出注意が出るなど）当初の予定動員を下回ったこと。
2. 台風 19 号の影響により記録誌の制作配布が遅れ、その積極的活用が本年度中に行えなかったこと。
3. 「平成 30 年度 飯綱町 自然の中の暮らし魅力創造発信事業における拠点施設整備」を踏まえた、さらなる町との協調。

今後の取り組み

引き続き、本年制作した記録誌を当初の冊数の配布のみならず、プリント・オン・デマンド（POD）なども利用し、広く流通させ、住民意識の醸成をはかるためのツールとして活用していく。また「平成 30 年度 飯綱町 自然の中の暮らし魅力創造発信事業における拠点施設整備」を実行する株式会社 CREEKS と協力し、飯綱町が展望する校舎リノベーション事業と歩調を合わせる形で、より地域住民に根ざした事業内容を精査・展開していく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた　「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある